

今日もどうでもいいニュースが大手紙朝刊の一面を賑わせる。いっそ競馬新聞でも読んでいる方が心地よい。戦後の偏向報道について今更触れるつもりもないが、メディアというのは明確に洗脳装置としての役割を果たしている。特に新聞社は購読者も減っているのだから一度解体された方がいい。

そんなことを想った今朝は酷い雨。明日も雨予報。そんな日でも試合はある。雨で流れるのは野球の試合ぐらいのもので、それこそ野球に偏っているのがマスメディアだから、雨だとスポーツは中止になると思っている人は少なくないのだが、そんなことはとんでもない。雨の神に愛された日は雨の神を称えながら粛々に行われるのが屋外スポーツというものだ。私が愛してやまない陸上競技も例に漏れず、雷が鳴ったり警報が発令されたりしない限りは、どんなに雨が降ろうとも時間通り流れていく。

当然そんな日はユニフォームもスパイクもずぶ濡れになる。特に今年の週末はやけに雨が多い。この前の土曜日今日みたく酷い雨だった。こんな中でも試合をするなんて殆どの人は信じないが、私たちはいつも通り闘うのだ。ちなみに雨だと予選で散って悔し涙を流しても、雨は優しく誤魔化してくれる。

雨の誤魔化しは不要と土曜日の予選を通過すれば、日曜日の決勝に備えずぶ濡れのユニフォームとスパイクを乾かす闘いが始まる。試合にはなるべく不快感を除去して臨みたい。スポーツの結果というのは準備が全てといってもいい。ユニフォームは薄手なので乾燥機にかけてしまえば問題ない。問題なのはスパイクだ。

ここで洗脳装置以外の役割が初めて果たされるのが新聞。この吸水力は認める。スパイクの奥底の不快感を取り除く為に一番役に立つのは、皮肉なことにこの不快極まりない新聞紙なのだ。明日の決勝に備えてどうでもいいニュースを丸めてスパイクに詰め込む。明日は絶対勝てる、そう自分を洗脳するように心を込めて。そしてこの時だけは思うのだ、新聞よ、ありがとう。

【ロペス】

陸上競技について、専門外の人に対し、本当に魅力的に伝えられる人だなと思います。全然興味がなかった陸上に対し、とても楽しみながら読むことができました。もっと陸上あるあるのコラムを読んでみたいです。

【マヨ】

導入文からのちゃんと着地して面白かったです。

最初に新聞にキレている様子が伺えるが、ただ愚痴っただけでなく最後にどうでもいいものをスパイクに詰め込んで、ちゃんと感謝の新聞に感謝の言葉を伝えていたただの口ではなくしているのが非常にうまい。私ならこれを意図してできないと思う。

あと全体的に可愛かった。

【しろくま(水谷)】

最初のメディア批判を最後の「丸めてスパイクに詰め込む」でまとめているのが皮肉もきいていて好きです。

細かいですが、前田さんの表現力も感心しました。「雨の神に愛された日は雨の神を称えながら粛々に行われるのが屋外スポーツというものだ」は、一見現実離れたような「神」という言葉から、「屋外スポーツ」という現実に着地する距離感もいいなと思いました。また、「雨だと予選で散って悔し涙を流しても、雨は優しく誤魔化してくれる」のような表現は、カタク力強い文体の中にあるからこそ、優しさが際立っている感じがしました。